

「祝島不老長寿マラソン」 最終回を終えて

大会実行委員長 國弘 秀人

8月29日(日)に「第8回祝島不老長寿マラソン」を開催しました。今年もたくさんランナーが祝島を訪れ、自然たっぷりのコースと島の人たちの温かい応援を満喫しながら楽しく走られました。多くのボランティアと島民の皆さんに支えられ、続けてくれた「祝島の夏の恒例イベント」ですが、諸事情により10年目の今大会を最終回とさせていただくことになりましたので、この10年間を振り返り、思い出したことを綴ってみました。と思います。

◎マラソン大会を始めた経緯

2001年1月に祝島出身者が中心になり「祝島ネット21」という会が発足しました。「祝島を離れていても島のために何か役に立ちたい」という想いで数十人のメンバーが集まりました。そこで『祝島の元気』を発信するためのイベントとして、私とKさんの提案で「マラソン大会をやろう!」ということになりました。「言い出しっぺが中心になるのが一番物事がうまく進む」ということで、そのまま私が実行委員長を務めることになりました。

私は1990年頃から、あちこちのマラソン大会に出場しており、中でも一番好きな大会が「四万十川ウルトラマラソン」でした。高知県の清流・四万十川流域を走る風光明媚なコースの前半は高低差600mの山登りもあるハードなコースですが、100kmという距離なので、参加者は記録よりも完走を目指す人がほとんどで、

んびりムードで走ります。応援する人も、スタート・ゴールの中村市(当時)以外は、コース上にある所々の小さな集落を通過する時だけという田舎でも、その地域のおじいちゃんやおばあちゃんや一生懸命応援してくれる姿がとても嬉しかったです。また給水のボランティアのおばあちゃんたちとの会話も楽しみました。そこを走っている時に、「もし祝島でマラソン大会をやったら、きっとこんな雰囲気の良い大会ができるんじゃないかなあ...いや、もっと楽しい大会になるかも...」と感じていました。祝島ネット21でイベントをやることになった時、マラソン大会を提案した理由の一つには、その時の予感を実現してみたいという想いもありました。

そして、ランナーはもちろん、ボランティアや応援の人たちみんなが楽しめるイベント、みんなが参加できるイベントにしたいなあ...という気持ちが強かったです。

◎大会運営ごぼれ話

「なぜ暑い夏にマラソンを?」とよく聞かれるのですが、冬は海が荒れることが多く、秋は台風の影響があるということと、5月のゴールデンウィークが夏休みものどちらかにしようということになりました。その時の準備期間の関係で5月は厳しいという現実的な問題もありましたが、祝島が一番輝いて、一番楽しめるのは夏だし、お盆の前あたりなら帰省した島出身者の子どもたちも出場しやすいのではないかな...ということで、開催日は『お盆前の日曜日』ということに決定しました。

コースは島の道路事情から、学校をスタートし、島の裏側の三浦まで行って帰って

来るというコースになるのですが、海岸を往復するか、片道は山を通って行くか、という選択がありました。山を通るとかなり厳しいコースになることはわかっていましたが、その方が変化に富んだコースになることと、山の上から眼下に広がる青い海や小祝島、そのすばらしい風景をぜひ見て欲しいということで、前半は山の道を通ることになりました。結果的には、きつい上り坂もこの大会の名物になりました。

大会のオリジナルTシャツは、祝島出身のMさんがデザインして、同じく祝島出身のIさんの会社でプリントしてくれることになりました。以来、8回大会まですべてのTシャツのデザインはMさんがボランティアで制作してくれました。

第一回大会の時、先導バイクの役をMさんとTさんが引き受けてくれました。二人とも初めての経験でしたので、私がランナーになって走って、先導の練習をしたのですが、本番のトップランナーは私とは比べ物にならないスピードだったので、Mさんは大会後に「あの練習はひとつも役に立たなかった。先頭のランナーに抜かれるところじゃった。」と笑って話をしていました。

夏の暑い時期だけに、準備として一番きつかったのは、草刈り。コースの近くに畑を持っている人をはじめ、島の人たちが自主的に草刈りをしてくださり、この数年はきれいな状態で走っていただけたと思います。とてもありがたかったです。

◎最終回の理由

多くの皆さまのご協力によって、最近

毎回定員オーバーで参加受付を予定よりかなり早く終了しなくてはいけない程、人気の大会に成長することができました。しかしながら、この10年の祝島を取り巻く状況の変化には大きなものがあります。

- ・祝島は飛躍的に有名になり、このような大きなイベントをやらなくても多くの人々が訪れてくれるようになりました。
- ・一方で、この大会を続けるには体力的、時間的な負担が大きく、徐々に運営が難しくなりました。

・祝島ネット21としては、祝島出身者や祝島ファンがそれぞれの場所で島のために活動できるように、そして祝島に若者が帰って来られるような雇用を創出するような活動にシフトしていきたいと考えており、今までマラソン大会の運営にかけてきた時間や労力を、こういった新しい活動に振り向けたいと考えています。

このような理由で今回を最終回ということにさせていただきました。ランナーの皆さんや地元の方からは、「これからも続けて欲しい」という声を多くいただいておりますが、新しいステップのために一旦終了し、もし余裕ができれば、復活ということもあるかも知れません。その時はまたよろしく願います。

長い間この大会を支え、応援していただいた祝島の皆さまをはじめ、関係者の皆様に感謝いたします。今後の新たな活動も応援していただければ嬉しく思います。

